

2024 年度 幼児造形事業 成果報告

2025 年 3 月

金城大学短期大学部 森田 ゆかり

2018 年度から始まった幼児造形事業は 7 年目を終えようとしています、どの事業も、自然体で行われるようになったことを感じます。

例えば「公開保育」を例にするなら、よくありがちな「公開保育用」の気負った活動ではなく、前日までの積み重ねがあつての「今日の活動」、そして明日以降へもつながっていくことが予想できるような保育を見せていただくことができました。2 歳児から 5 歳児担当保育者による「絵を読む会」、0, 1 歳児担当保育者による「遊び・表現を読む会」も同様です。

また、研修は複数の担当者によって運営されていますが、固定化せず、この 7 年間で、担当者が代わってもうまく引き継がれています。受け身にならず、誰もが担当者として研修を実施することができるような仕組みが、この 7 年間で確立され、裾野が広がっていることに感心します。参加者も固定化しないよう配慮されています。

今、どの分野でも「世代交代」は課題ですが、かほく市幼児造形事業の仕組みには、とても学ぶところが多いと思います。

おもな事業内容

実施日時		会場	内容		参加数
5/28	13:15 ～14:45	議会庁舎第 1 会議室	幼児造形研修会①	絵を読む会（5 歳児） 	16
7/2	9:30 ～11:00	市立新化こ ども園	5 歳児公開保育 （3,4,5 歳児保育 者対象）	「色砂づくりを楽しもう！」 	13

	13:15 ～14:45		5 歳児公開保育検 討会	「色砂づくりを楽しもう！」の検 討会	25
7/30	13:15 ～14:45	議会庁舎第 1 会議室	幼児造形研修会②	絵を読む会（4 歳児） 	16
7/31	13:15 ～14:45	宇ノ気生涯 学習センタ ー音楽室	幼児造形研修会③ （0,1,2 歳児保育 者対象）	実技研修 1-1・造形遊び（教材 研究）「カラーペン＋水」 	32
8/2	13:15 ～14:45	宇ノ気生涯 学習センタ ー音楽室	幼児造形研修会④ （0,1,2 歳児保育 者対象）	実技研修 1-2・造形遊び（教材 研究）「カラーペン＋水」 	30
8/8	13:15 ～14:45	宇ノ気生涯 学習センタ ー音楽室	幼児造形研修会⑤ （3,4,5 歳児保育 者対象）	実技研修 2-1・造形遊び（教材 研究）「さまざまな素材で凸凹を 写し取る（フロッタージュ）」 	21

8/30	13:15 ~14:45	宇ノ気生涯 学習センタ ー音楽室	幼児造形研修会⑥ (3,4,5 歳児保育 者対象)	実技研修 2-2・造形遊び(教材 研究)「さまざまな素材で凸凹を 写し取る(フロッタージュ)」 	19
9/10	13:15 ~14:45	議会庁舎第 1 会議室	幼児造形研修会⑦	絵を読む会(3 歳児) 	14
10/30	13:15 ~14:45	議会庁舎第 1 会議室	幼児造形研修会⑧	絵を読む会(2 歳児) 	18
11/13	9:30 11:00~	市立金津こ ども園	1 歳児公開保育 (0,1,2 歳児 保育者対象・ビデ オを視聴)	「選んで遊ぼう!好きな遊び」 	3
	13:15 ~14:45	議会庁舎第 1 会議室	幼児造形研修会⑨	遊び・表現を読む会(1 歳児)	19

12/11	13:15 ～14:45	市役所 301・302 会議室	1 歳児公開保育検 討会	11/13「選んで遊ぼう！好きな 遊び」の検討会 	23
12/25	13:15 ～14:45	議会庁舎第 1 会議室	幼児造形研修会⑩	遊び・表現を読む会（0歳児） 	13
2/1	14:00 ～16:30	石川県西田 幾多郎記念 哲学館	かほく市こども園 職員会研修会	- 講演 淑徳大学教育学部子ども教育学科 准教授 松家まき子氏「心ふれあうタオルあそびとパネルシアター」 - 県保育実践研究発表報告 - 研究委員会報告 他	144
通年		公立こども 園全園	展示	玄関付近にアートコーナーを設け、現在進行形の造形活動およびドキュメンテーションを随時展示（※）	
		ホームペー ジ	情報発信	幼児造形事業内容について、子どもの姿を中心に園での取り組みを発信	
		イオンモ ールかほく	イオンエンパ ワメントプロ ジェクト（展 示）	（※）の展示後、各園月替わりでイオンモ ールかほくに展示（3、4 歳児） 7 月 しらゆりこども園 8 月 大海こども園 9 月 みずべこども園 10 月 金津こども園 11 月 高松こども園 12 月 はまなすこども園 1 月 新化こども園 2 月 ひまわりこども園	

2024 年度の特記事項

《幼児造形研修会》

2021 年度以降、平日の午睡時間に設定し、会計年度任用職員の方々が優先的に参加できるようにしているが、昨年度私立園の保育者が参加したことに続き、**今年度は、子育て支援センターの保育者も実技研修に参加している。**

《金城大学短期大学部・幼年美術の会との連携》

「絵を読む会」「遊び・表現を読む会」および「実技研修」に関して、今年度も、「かほく市幼児造形事業」、金城大学短期大学部で森田が担当する造形の授業、かほく市の保育者が多数参加（2024 年度は 35 名の方が登録）している「石川幼年美術の会・スタッフ研修会」の取り組みが、自然な形でリンクし成果をあげた。

昨年度に続き、かほく市の保育者と保育を志す学生が共に学ぶ機会が3回あり、大いに刺激を受け合った。特に、**学生・保育者それぞれが教材研究した中から生まれ、「全国幼年美術の会夏季大学」（京都・龍谷大学）の「実技研修」の題材になった『カラーペン 水で色をあそぶ』**は、「水性ペン+水とえば、にじみ絵」という常識をくつがえし、「乳幼児の遊び」への理解を深め、全国からの参加者に大好評であった。

昨年度は、金城短大での「世界児童画展」開催期間とスタッフ研修会の日程を合わせ、作品を鑑賞する機会をつくったが、今年度は「世界児童画展」の展示をスタッフ研修会の研修内容の一部とし、じっくりと時間をかけ、絵と対話しながら展示を行なった。



《第 76 回全国造形教育研究大会 滋賀大会で実践発表》

10 月 24,25 日に、滋賀県草津市で開催された「第 76 回全国造形教育研究大会 滋賀大会」の2日目、主催者からの依頼を受け、新化こども園の根布律子園長および吉田一美主任保育士が、『共に育つ ～かほく市・ゼロからの造形活動～』というテーマで実践発表を行った（会場：校種別会場・笠縫東小学校 / 実践発表 25 分、研究協議 20 分、講評・まとめ 15 分）。

発表前には笠縫東こども園 5 歳児の公開保育および研究協議にも参加し、実践発表とともに貴重な経験をすることができた。

7 年目となり、どの事業も自然体で行われていることを冒頭で記したが、課題があるとすれば、初心を忘れないことかもしれない。初めての事業に誰もが不安な気持ちを抱きながら、手探りで挑戦し始めた頃の気持ちである。

今年度のアンケートの中に「他園の人との交流が少なかったので、個人だけでなくグループでもできる活動があれば嬉しかったです」という自由記述があり、はっとさせられた。今年度初めて実技研修に参加して下さった保育者が書かれたものである。実技の内容だけではなく、他園の人と交流できることに期待をよせていたことが窺える。たとえグループでできる活動を設定しなくても、交流はできたはずである。多様な一人ひとりの思いを想像することは、保育の原点である。アンケートでそのことに気づかせて下さったことに感謝申し上げ、改善していきたい。

「絵を読む会」「遊び・表現を読む会」の時には、初めて「読む会」に参加される方が一定数いらっしゃることを想定し、毎回必ず、「読む会」で大切にしていることを最初にお伝えしている。今年度たまたま、何度も「読む会」に参加している保育者から、「大切なことは、何でも聞くことが大切です」という声をいただいた。慣れてくると疎かになりがちなのかもしれない。

かほく市のこども園では今や当たり前になっていることも、7年前にはそうではなかった。初めて参加する人の気持ちになること、実践していることの意味が伝わるように丁寧に伝えること、「これでいい」と思わず、絶えず問いながら、崩しながら再構成していくことが必要であり、そのことはとても楽しいことだと考えている。